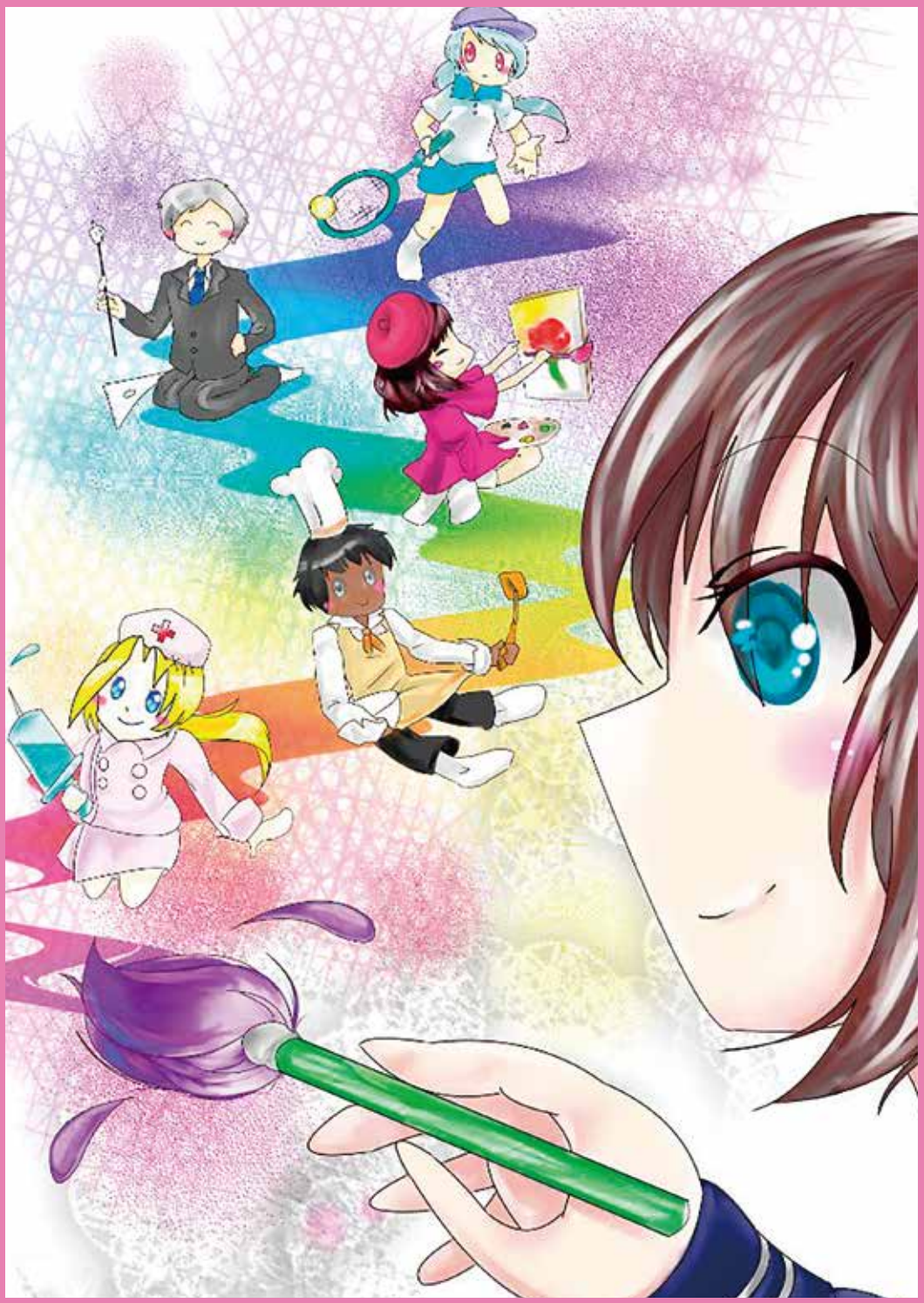
中学生のメッセージ2015

第37回少年の主張三重県大会



デザイン画：熊野市立有馬中学校３年　若山のどかさん

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
紀南地区中学生のメッセージ実行委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

は　じ　め　に

「大人にはない純粋な心の叫びに、涙が止まりませんでした。」

「皆さんの発表を聞き、大変感動し勇気をいただきました。この子どもたちがいる限り、日本の未来は大丈夫だと思います。」

ご来場の方々からいただいた感動の言葉の、これはほんの一部です。

今年度も 7,885 名の中から最終選考に残った 14 名が、それぞれの思いを自分の言葉で堂々と発表してくれました。そして嬉しいことに、最優秀賞に輝いた紀北町立紀北中学校 3 年小谷原ひな子さんが、中部・近畿ブロック選考を通過し、三重県代表として 4 年ぶりに全国大会出場を果たすことができました。

メッセージの発表以外にも、司会、受付、案内を明るい笑顔でこなしてくれた皆さん、美しく迫力のあるハーモニーを奏でてくれた吹奏楽部、夢あふれる素敵なデザイン画を描いてくれた皆さん、和やかな雰囲気でふるさとを案内してくれたおふたり…たくさんの地元中学生のパワーが結集し、第 37 回大会は心通う素晴らしい交流の場となりました。

また、今回も、紀南地区青少年育成市町民会議関係者の皆さまによる実行委員会が、一年間にわたり抜群のチームワークを発揮し、今大会を実り多き盛会へと導いてくださいました。

昨今、少子高齢化や情報化が急速に進み、青少年を取り巻く環境が大きく変化しています。生活が便利になった反面、地域の繋がりなど青少年の育ちに大切なものが失われつつあると言われています。

地域の大人たちは中学生の皆さんの応援団です。そして、皆さんの力になりたいと思っている大人たちが、じつは中学生の皆さんから元気・勇気・感動をもらっているのです。

中学生の皆さんは、『地域の宝』です。

そして、これからの日本、さらには世界を担う『未来の大人』です。

「中学生のメッセージ」が、皆さんの成長の歩みにおいて輝けるステージとなるよう、地域の皆さまと共にこれからもずっと育て続けていきたいと思っています。

来年も新たな感動が生まれますよう尽力してまいりますので、より一層関係者の皆さまのご支援を賜りますようお願い申しあげます。

平成 28 年 1 月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

理事長　太　田　栄　子

平成27年度 中学生のメッセージ2015

（平成27年８月23日　御浜町中央公民館アメニティーホール）

発表者と審査委員の皆さん

主催者から大会挨拶

最優秀受賞者は全国大会へ出場

御浜町大畑町長から
歓迎挨拶

紀南地区実行委員会の皆さん

来賓の皆さん

目　次

はじめに

◆大会発表作品
最優秀賞
「おかえり」　紀北町立紀北中学校３年　小谷原ひな子……１
優 秀 賞
ちょっと考えてみませんか　鈴鹿中学校２年　井上　眞衣……３
平和な社会にするために　津市立橋北中学校３年　髙橋玄太郎……５
全力のチカラ　皇學館中学校１年　西山　朱音……７
優 良 賞
携帯端末機の普及と危険性について　名張市立桔梗が丘中学校3年　飯田　奨之……９
気持ちを大切に　鈴鹿市立鈴峰中学校３年　伊藤　亜優……11
「大事な思いやり」　～ラグビーを通して学んだこと～
熊野市立木本中学校３年　川上　太陽……13
私自身にとっての弟　御浜町立御浜中学校２年　川﨑　朱梨……15
「平和について」　紀宝町立矢渕中学校３年　佐藤　佑……17
私の母　鳥羽市立加茂中学校３年　薗田あすか……19
好きなもの　御浜町立御浜中学校３年　仲村　凜乃……21
価値観の違い　桜丘中学校１年　庭田　凜……23
平和な未来のために　四日市市立桜中学校３年　橋本さつき……25
僕の町「助け合う心、思いやる心」　熊野市立五郷中学校１年　三鬼裕泰郎……27
◆　審査委員の講評……29
◆　大会を迎えるまで……34

◆大会概要及び審査基準
１　応募の状況……35
２　審査基準及び審査委員……36
３　地域優秀賞受賞者一覧……37
４　学校奨励賞受賞校一覧……38

◆大会メモリアル……39

◆中学生への応援メッセージ……41

◆協賛企業・団体紹介……42

◆参考資料
中学生のメッセージ2015（第37回少年の主張三重県大会）実施要項 ……43
第37回少年の主張全国大会～わたしの主張2015～ ……45
平成27年度内閣総理大臣賞の紹介〔少年の主張全国大会～わたしの主張2015～〕……47

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。

最優秀賞・国立青少年教育振興機構奨励賞
「おかえり」

紀北町立紀北中学校３年
小谷原（こやはら）　ひな子

「おかえり。」

母はこの日も、私の帰りを楽しみにしていました。

母の癌が発覚したのは８年前でした。

まだ幼かった私には分からなかった母の苦しみ…。そのせいで未だに後悔をひきずる毎日…。

母は、本当は苦しいはずなのに、子どものためを想い入院を断りました。だから、子どもの帰りが楽しみで、いつも嬉しそうに

「おかえり。」

と言ってくれました。しかし私は、いつ何が起こるか分からない恐怖と不安でいっぱいの母の気も知らず、遊びに行ってしまったのです。

このときの母の気持ちを考えると、胸が苦しくてたまりません。そして涙が止まりません。

ただそばにいてあげることなど、当時の小さい私にも簡単にできたことです。そんな簡単なことでも、母にとっては大きな安心につながったはずです。

私の体調が悪いとき、母は誰よりも心配し、ずっとずっとそばにいてくれたのに…。

初めて母の苦しむ姿を見たときも、怖くて何もしてあげることができませんでした。そして母は救急車で運ばれ、入院することになりました。

母が帰ってくると知らされたとき、「今度は私が“おかえり”を言う番だ」と、母が私の帰りを楽しみにしていたように、私は母の帰りを楽しみにしていました。

「お母さん、癌治ったんだ」という喜びと、「おかえり」を言うことで頭がいっぱいでした。しかし、6年前の3月30日、帰ってきたのは亡くなった母でした。

母がいることがあたりまえだと思っていた私が、それは決してあたりまえのことではないということに初めて気がついた日でした。

母とあいさつを交わすこと、母の料理を食べること、母に悩みを相談できること、母に怒られること、母とけんかすること、家に帰れば母の「おかえり」が聞けること。

私以外にも、このような母との関わりがうらやましいと思う人がいます。あたりまえとは言えない人がいるのです。だから、あたりまえだと思わないでください。幸せなのです。そんな毎日がすごくすごく幸せなのです。

母親に腹を立て、「死ね」と言っているのをよく聞きます。実際、本当に願っているわけではないと思いますが、私は腹が立ちます。

●部活動や学校外活動	**バドミントン部　主将**
●好きな科目	**音楽・家庭**
●好きなことや好きなもの	**お菓子づくり**
●将 来 の 夢	**パティシエ**

あなたは、友達にも話せない悩みを誰に相談するのですか？

風邪をひいたとき、そばにいてくれるのは誰ですか？

どんなときもあなたを信じ、背中をおしてくれるのは誰ですか？

お母さんではありませんか？母親のことを何と言おうと、結局、みんな母親に頼っています。母親を必要としています。絶対に失いたくない存在なのです。だから、私のような後悔をしてほしくないのです。

確かに、今思えばあのとき、「おかえり」を言う母の声はいくら嬉しそうで明るい声でも、母の体はだるそうで、いつも何かにもたれていました。当時の私が今の私なら、そんな母を残して遊びに行くなど考えられません。このように、中学生にもなればもう、相手のことを考え実行することなど簡単です。だから、そんな簡単なことで後悔するのは絶対にやめてください。自分のためだけではありません。その後悔の数だけ、相手を傷つけてしまうのです。

少し前、友達に「もし願いが一つだけ叶うなら」と聞かれ、何も言えませんでしたが、心の中で私は迷わずこう答えました。「もう一度だけ、母の“おかえり”が聞きたい」と。

第37回少年の主張全国大会（H27年11月8日）

優秀賞
ちょっと考えてみませんか

鈴鹿中学校２年
井上眞衣（いのうえ まい）

テレビやインターネット、新聞などでは「外国人差別」という見出しをよく耳にしたり、見かけたりします。私はこの「外国人差別」は絶対にしてはいけないことだと思います。なぜなら、相手の気持ちを全く考えていないからです。私自身も実際に外国人差別を受けて、傷ついた経験があります。

私は以前、中華人民共和国、通称「中国」に滞在していました。その時、日本と中国の尖閣諸島をめぐる問題で、中国では日本国や日本人に対する「反日デモ」がおこっていました。その影響で、私たちのような中国に滞在している日本人の人々はタクシーに乗せてもらえなかったり、お店に「日本人立入禁止」という紙が貼られていたりしました。学校が一週間休みになってしばらく外へ出られなかったときもありました。中でも私が一番傷ついたのは、久しぶりに授業が再開した学校から自宅へ帰る時の出来事です。帰りのバスに乗って外を眺めていると、中国の人と目が合いました。私は何か言われるのではないかと思い、とっさに視線をそらしました。すると、

「日本人消失（日本人消えろ）」

と言われて、手で銃のような形を作り、「バァン」と言われました。そしてニヤッと笑っていました。私は本当に傷つきました。私たちは何もしていないのにな、なぜこんなふうに言われなきゃいけないのかな、もっと相手の気持ちを考えてほしいなと思いました。

その一方で嬉しい気持ちになった経験もあります。デモからだいぶ経った時のことでした。学校に行こうとエレベーターに乗っていると、一人の中国人のおばあさんと偶然一緒になりました。すると、そのおばあさんが話しかけてきました。

「示威可以丟失（デモがなくなってよかったですねぇ）」

と言ってくれました。私はすごく嬉しく思いました。「こんな風に相手の気持ちを考えてくれる人もいるんだな」と。本当に本当に嬉しかったです。このことを学校の先生に報告しました。すると、

「私たち日本人のことを考えて、気づかって下さる方々もいる。だから私たちももし逆の立場になったとき、相手のことを考えないといけない。」

とおっしゃっていました。その時、私は確かになと思いました。

このように、私は自分の体験から「外国人差別」は絶対に反対です。やはり言われた相手は傷つくし、言った相手もあとで言わなければよかったと考えると思います。もちろん、言っ

●部活動や学校外活動	**吹奏楽部**
●好きな科目	**英語・数学**
●好きなことや好きなもの	**絵を描くこと・読書**
●将 来 の 夢	**語学を生かせる仕事につきたい**

て後悔しない人もいるかもしれません。しかし、ちょっと立ち止まって相手の気持ちを考えることは誰だってできることだと思います。日本人に対する差別はもちろんのこと、外国人に対する差別も決してあってはならないことです。たとえば町で外国人とすれ違う際に顔をまじまじと見てしまうことがありませんか。きっと、見てしまうことがあると思います。やられた外国の人たちは傷ついてしまうと思います。私も中国でやられたことがあるので気持ちがすごく分かります。もうこれ以上「外国人差別」を受ける人が増えてほしくありません。例え国籍が異なる外国人でも、同じ人というのにはかわりないので、差別はしてほしくないと思います。ちょっと立ち止まって相手の気持ちを考えていけば差別はきっとなくなっていくと思います。

優秀賞
平和な社会にするために

津市立橋北中学校３年
高　橋　玄太郎（たかはし　げんたろう）

皆さんは山本美香さんのことを覚えているでしょうか。山本さんは2012年8月、シリアでの取材中に政府軍の銃撃により亡くなったジャーナリストです。僕は昨年の夏、彼女の書いた本を読み、読書感想文を書きました。この本の中で山本さんは紛争に巻き込まれた世界の子どもたちの今を伝えています。その子どもたちの中には昔の日本のように、兵士となってしまった子もいるし、あまりにひどい状況を見て、感情がなくなってしまった子、激しいトラウマに悩まされたり、常に頭痛や吐き気がする子もいると書かれていました。山本さんは常に弱者の立場に立って物事の真実を伝えていました。

彼女が亡くなってからも世界では悲しい出来事が続いています。ISやボコハラムなどのテロ活動や、少年や少女が連れ去られて自爆テロの対象とされるような事件もありました。

日本では、集団的自衛権の行使を可能とする安全保障関連法案が国会で審議されています。僕は新聞やテレビなどでこの法案についていろいろと読んだり見たりして、なにが正しいのかなにが間違っているのか、難しいけれども考えています。

そのような中、僕は沖縄に修学旅行に行きました。そこで僕は昔、日本で唯一住民が巻き込まれた地上戦が行われた沖縄での戦争について学びました。戦時中に人々が逃げこんだ自然の防空壕であるガマの中に実際に入り、死の恐怖におびえていたであろう当時の人の大変さを体感しました。またその沖縄戦を実際に体験した方のお話も聞きました。家族が次々と亡くなっていく悲しさや戦争の中を生きていくとはどのようなことなのかをリアルに話していただきました。その他にも住宅地に隣接していることから世界で一番危険な基地と呼ばれる米軍普天間基地の隣にある佐喜眞美術館にも行きました。そこで僕はアートで平和をつくるというテーマで作られた１枚の絵にひかれました。その絵の中には空爆から逃げまどう人々、体が燃えさかる人々、もう勝ち目はないと集団自決をする人々も描かれていました。この沖縄の修学旅行で学んだ沖縄戦は僕が今まで想像していたものよりもずっと過酷だったし、悲惨なものでした。

今年は戦後70年、実際に戦争を体験した人はほんとうに少なくなってきています。自分たちは生まれてからずっと平和な日本で暮らしています。だから少しでも世界に目を向け耳を傾けないと、今世界でどのようなことが起こっているのかが分からなくなってしまいます。山本さんは僕たちに世界に目を向けるきっかけというものを作ってくれたのではないでしょうか。僕は修学旅行で行った佐喜眞美術館の学芸員の方が言っていた

●部活動や学校外活動	**野球部・生徒会代議員**
●好きな科目	**英語**
●好きなことや好きなもの	**読書・映画鑑賞**
●将 来 の 夢	**ジャーナリスト**

「戦争をなくしたいと思うならばまず戦争についての真実を知らなくてはいけない。そして過去の真実を学んでそれを次に生かさなければならない。そうすることで歴史を繰り返させない。」

という言葉が心に残っています。

僕は将来、山本さんのように世の中の出来事の真実を伝えるジャーナリストという仕事に就きたいと思っています。そのためには世の中のことをたくさん勉強し真実を知ろうとしないといけないと思っています。また憲法のことや法律といったことも学んでいきたいと思います。「世界を変える」とまではいかなくても「世界を昨日よりは少し良くする」ということなら僕たちにだってできます。また、もっと世界の現状についても過去についても勉強することだってできます。みんながそうすることで日本が、そして世界がもっと平和になるのではないでしょうか。

山本さんはこうも言っています。

「世界は戦争ばかりと悲観している時間はない。」

この言葉の本当の意味をかみしめ、自分にできることから行動していきます。これからの時代を担っていくのは僕たちなのです。

優秀賞
全力のチカラ

皇學館中学校１年
西山朱音（にしやま あかね）

「やれる事は全力でな。」

私の母はよくこの言葉を言います。私はいつもこれを心がけています。これは私にとって、何でも前向きに頑張らせてくれる魔法の言葉なのです。

私の母にはたった一人のお姉ちゃんがいました。お姉ちゃんは中学校に入学して、しばらくしてある病気になりました。入退院をくり返していたため、大好きなクラブ活動もできなくなったけれど、調子の良い時は病院のベットの上で教科書を開いていたそうです。

そんな状況でも高校進学をはたしたお姉ちゃんでしたが、高校生になってからも入退院は続き、思うように学校へ通う事ができませんでした。お姉ちゃんの通っていた高校では週に１度漢字テストがあったそうです。入院していてテストを受ける事ができないと分かっていても、それでもテスト勉強はしていたといいます。しかし、そんな頑張り屋のお姉ちゃんでしたが、病気に勝つ事はできず高校１年生で亡くなってしまいました。母が小学校６年生の時だったそうです。

それから、数年して母もお姉ちゃんと同じ高校に進みました。そして知りました。先生たちは、お姉ちゃんの勉強に対する熱意や努力を、後に入学してくる生徒たちにずっと語りついでくれていたのです。母は声を上げて泣いたそうです。

そしてそれまで何でもやれる事、やらなければいけない事を、何となく程よくこなしていたけれど、全力でやり切れていなかった自分に気付けたそうです。お姉ちゃんが勉強と戦いながらも全力で勉強に取り組んだのに、健康で何でも普通にやれてしまう自分が全力でやらなかったら、たった16才で亡くなってしまったお姉ちゃんに申し訳ないと思ったのです。それ以来、母は自分がやれる事、やるべき事は全力で取り組むようになったそうです。

私はこの話を聞いた時、私も母のお姉ちゃんに悪い事をしているなと思いました。色んな事に対して頑張ってはいるけどはたして全力と言えるかと。

私なりに全力で頑張るとはどういう事なのか考えました。全力とは字の通り全ての力です。でも自分の力がどのくらいあるのかもわからなかった私にはすごく難しかったです。

しかしある時わかりました。私は小さな頃からダンスを習っています。毎日練習も頑張っています。数年前、あるダンスのオーディションを受けた時、必死に練習したのに、結果は不合格。くやしかったです。けれど、すぐに次も頑張ろうと思えました。全力でやり切った感じにつつまれたからです。その時に全力で頑張る、取り組むとは、その結果が自分で納得

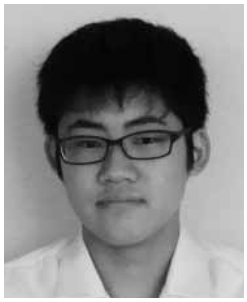
●部活動や学校外活動	**ダンス**
●好きな科目	**数学・理科**
●好きなことや好きなもの	**ダンス**
●将 来 の 夢	**動物看護師・ダンスのインストラクター**

して受け入れられてそして次へつながる気持ちを持てるかどうかなんだと思いました。

私はそれ以来、全力主義です。

全力で取り組むと、何と言っても達成感がたまりません。結果ばかり求められている現代社会ですが、たとえ、思うような結果にならなくても、めいいっぱいポジティブにその時その時を大切にしていきたいと思う私は、いつも「全力ガール」です。もうすっかり全力のとりこです。

全力で取り組むすばらしさを身を持って示してくれた母のお姉ちゃん、そしてその大切さに気付くチャンスをくれた母に感謝しています。もしかしたら、全力の大切さを教わった私と母はお姉ちゃんの教え子といえるかもしれません。私はいつか結婚して子どもができたらこの全力のすばらしさを子どもに教えてあげたいと思います。お姉ちゃんの教え子が一人でも多くなるといいなと心から思います。



優良賞
携帯端末機の普及と危険性について

名張市立桔梗が丘中学校３年
飯田奨之（いいだしょうの）

私が携帯電話を持ち始めたのは、小学校６年生の時。両親が共働きの為、家族と連絡を取り易くする為にという理由からでした。同じ様な理由や、防犯の為に持ち始めた友人も少なくありません。では、私たち中学生は一体どれくらい携帯電話を保有しているのでしょうか。

「平成24年度青少年の体験活動等に関する実態調査報告書」より「各学年別の携帯電話保有率」を見てみると、小学１年生では16%、中学２年生では55%と、小学生では携帯電話の保有率は少数派なのに対し、中学生になると、一気にほぼ半数にまで増加していることが分かります。少なくとも電子メールのやり取りは出来ると見られ、中学生にとって、携帯電話がコミュニケーションツールとして認識されているということでしょう。

私は現在、スマートフォンを保有していますが、主に、友人とのライン、無料ゲーム、インターネットの利用など、大変、便利な道具として、自分の生活には欠かせないものとなっています。しかし、便利な反面、使い方を誤ると、危険な面を持ち合わせていることも事実です。携帯電話への依存による日常生活への支障、友人関係のトラブル、犯罪に巻き込まれるなどです。逆に、自分にはそのつもりがないのに、自分が誰かを攻撃してしまうなどの加害者になる危険性もあるのです。

特に、自分自身、身近に感じる危険として「ながら操作による事故」についてです。普段、街中でも、歩きながら、自転車に乗りながら、または、車を運転しながら、スマートフォンを操作している人を見掛けることも珍しくありません。駅のホームなどでは、すぐ横に線路があるにも関わらず、ながら操作をしている人を見掛けると、こちらの方がとても心配になります。私は親から、この「ながら操作」については、特に厳しく注意をされており、もし、ルールを破れば、即刻、スマートフォンを解約する約束になっています。親がそれだけ厳しく言うのには、もし、私が「ながら操作」をしたことにより、自分だけでなく、周りの関係の無い人までをも巻き込むことになり兼ねないからだと説明されました。本当にその通りだと思います。

あと、インターネットや、ラインなどのコミュニケーションサービスで、人を傷付けるようなことを書き込んだり、出会い系などのまったく知らない人とやり取りをしたりすることも絶対にしてはいけないと約束しています。私自身、元々、そういったことにあまり興味が無いので、深入りすることはありませんが、周りの友人の中には、ラインなどで、心無いことを言われて傷付いたり、また、うまく言葉に表せなかったことで、不本意に、相手を傷付

●部活動や学校外活動	**生徒会会長・水泳**
●好きな科目	**数学・理科**
●好きなことや好きなもの	**水泳**
●将 来 の 夢	**ただいま模索中…**

けてしまったりと、友人関係で悩んだこともあるという話を聞いたことがあります。インターネットでは、色んな情報が簡単に入手できることで、色んなサイトを無制限で閲覧したことによる高額請求など、私自身、携帯電話を保有した当初に経験したことがあります。

「情報の入り口はトラブルの入り口、ネットでの新しい出会いはトラブルとの出会い」、とても上手く言い表している標語です。私は来春、高校生になりますが、先程、紹介した報告書によると、高校生になると携帯電話の保有率は 98%と、もうほとんど保有しているという結果です。また、これからも次々と新しい携帯端末機が開発され、その度に私達の生活に取り入れられることと思います。新しいことには積極的にチャレンジしていきたいと思いますが、便利さと併せて、トラブルや危険とは常に隣り合わせであることは、これからも変わらないと思います。

私の場合、親との間で使用上の取り決めが幾つもあり、先程、紹介したこと以外にも、保管場所と使用時はリビングのみ、夜 10 時以降の使用禁止など、細かく決められています。正直、もっと自由に使いたいという不満もありますが、危険な目に遭わない為の使い方が身に付くまでは、これらの取り決めを徹底し、また、依存症にならない為に、自分を律する心を育てることも大切だと教わりました。これらのことをしっかりと認識し、よく理解することが、携帯端末機と上手く共存する為に大切なことではないでしょうか。

優良賞
気持ちを大切に

鈴鹿市立鈴峰中学校３年
伊藤亜優（いとうあゆ）

みなさんは保健所や動物管理センターに持ち込まれる犬や猫の実態を知っていますか。どのように処分されるか知っていますか。

この世の中には、自分の飼っている犬や猫を大切にし、かわいがり、最期まで愛情をたっぷりと注ぎ続ける飼い主がたくさんいます。その飼い主に飼われている犬や猫は幸せに暮らしていくでしょう。しかし、その反面「飽きた」「汚い」「赤ちゃんが生まれていた」などの理由で犬や猫を保健所や動物管理センターに持ち込む、無責任で身勝手な飼い主もいます。そのような飼い主によって保健所や動物管理センターに持ち込まれる犬や猫は、年間約 14 万頭もいるそうです。収容期限は 4・5 日で、死に方の中で最もつらいとされる窒息死で殺処分されます。10〜15 分も苦しめられるのです。里親が見つかれば、里親のもとへ行く場合もありますが、約 80%が殺処分されています。

私はこのような現状を受け止めたくありません。どうして何の罪も無い犬や猫が殺されなくてはいけないのでしょうか。私たち人間には、必ず自分の味方になってくれる、絶対に信じられる家族、そして信頼できる友達がたくさんいると思います。しかし、犬や猫が信じられるのは飼い主だけなのです。犬や猫は、いつも素直な心で飼い主に寄り添っています。飼い主と一緒にいるときが１番楽しくて、安心できて…飼い主のことが大好きなのです。捨てられた犬や猫は、信頼していた、大好きな飼い主に捨てられて、それだけで充分悲しい思いをしたのに、苦しみながら死ぬなんてあんまりだと思いませんか。自分におきかえてみてください。信頼しているお父さんやお母さんに捨てられたあげく、殺されでもしたらどう思いますか。動物だって感情があるのです。人間と同じなのです。犬や猫は何も話せないからといって、その気持ちを考えず、ふみつぶさないでください。もっと犬や猫の気持ちを大切にしてほしい、耳を傾けてほしい、私はそう思いました。人間のように守られているわけではないから、人間が守ってあげないといけないのです。

日本はペットを飼っている人が多いことから『ペット大国』と言われています。しかし、『ペット大国』と言われているわりには、犬や猫を育てる環境が整っていません。だから、犬や猫を捨てる人がたくさんいるのです。世界で１番犬に優しいと言われるドイツでは、生き物のすべてを大切にしているため、なんと動物の殺処分がゼロなのです。もちろん、ペットを見捨てる人もいます。しかし、その保護されたペットはティアハイムという施設で里親になってくれる人を待つのです。もし、引き取り手がなくても終生ティアハイムで過ごすこと

●部活動や学校外活動	**美術部・生徒会**
●好きな科目	**理科**
●好きなことや好きなもの	**音楽鑑賞**
●将 来 の 夢	**音楽に携わる仕事**

ができるのです。動物の命がちゃんと守られているのです。また、ドイツでは店頭での生体販売をしていません。日本では犬や猫に値段をつけ、まるでもののように売っていますよね。他にも、犬が生活するスペースや環境にも条例があったり、交通機関すべてを犬と一緒に乗ることができたり、憲法の一部に動物保護法が取り入れられていたり、犬にとっても優しい国なのです。だから、犬を捨てる人が少なく、殺処分がゼロなのです。とってもすばらしい国だと思いませんか。私は日本がドイツのような国になってほしいと強く思います。

　みなさん、日本で捨てられた犬や猫の実態を知っていただけましたか。私は何よりも、犬や猫の気持ちを大切にしてほしいと思います。そして、犬や猫も私たちと同じ大事な大事な命だから、尊重することが大切だと思います。これ以上犠牲を出さないために、私と同じ考えを持つ人が少しでも増えてくれたらとても嬉しいです。犬や猫をめぐる環境が良くなるよう願っています。

優良賞
「大事な思いやり」～ラグビーを通して学んだこと～

熊野市立木本中学校３年
川上太陽（かわかみたいよう）

この世の中は平和ではありません。どこかの国とどこかの国で戦争や紛争が起きていたり、テロによる事件や核兵器問題など多くの問題があり、平和に近づくにはまだまだほど遠いと思います。

そこで、僕は世界中の人々が「思いやり」の気持ちを持てば世界中の人々が平和に暮らせるのではないかと考えました。この考えは、僕自身が中学校のラグビーを通して思ったことです。

僕は小学校５年生の時からラグビーをしていて、中学校でもラグビーを続けています。中学校のラグビーは 12 人制で、他のスポーツと比較してみると人数が多いです。そのため、人数が多い分みんなが一人ひとり意思統一をし、気持ちを高め、チーム全体としての絆をつくらなければなりません。なので、たった一人が欠けてしまったら、チームの絆がなくなってしまうのです。「一人はみんなのために。みんなは一人のために。」この言葉は、ラグビーをする人にとってとても大事な言葉です。ラグビーはチームメイトを思いやるスポーツなので、世界中の人々がラガーマンのような思いやりがあればいいと僕は思いました。

なぜ、ラグビーは思いやりがあるスポーツかというと、例えば試合で一人のチームメイトが大事な場面でミスをしてしまったとします。すると、他のチームメイトたちはそのミスに対して怒らず、「ドンマイドンマイ」、「ここから切りかえていこう」などの前向きな言葉でミスをしてしまったそのチームメイトにチームみんなではげますのです。もし、そのミスに対して怒ってしまったら、そのチームメイトはネガティブ思考になってしまい、自分のプレーに自信が持てなくなってしまう上に、チーム全体の士気が下がってしまうことがあります。なので、前向きな言葉をかけてあげて、「次からは気をつけよう」とポジティブな考え方を持たせることが大切なのです。このような場面でラグビーでの思いやりが生まれるのです。

実際に自分も試合で大きなミスをしてしまい、自分のプレーに自信がもてなくなり、ネガティブになったことがありました。でも、そんな僕に同じチームメイトの先輩が「ドンマイ。気にすんなよ。」と言ってくれたので、しっかりと反省し、「次からはミスはしないぞ」とポジティブな気持ちになれました。このとき、言葉の思いやりの大切さを思い知りました。そして、僕も思いやりのある人になりたいと思いました。

このように、思いやりは人に対して気遣ってあげたり、優しくしてあげたりすることができます。その思いやりを高齢者や障がいのある人、困っている人に分けてあげればいいと思

●部活動や学校外活動	**ラグビー部**
●好きな科目	**保健体育**
●好きなことや好きなもの	**ラグビー・観賞魚の飼育・音楽鑑賞**
●将 来 の 夢	**魚関係の仕事**

います。思いやることで、その人が笑顔になり、幸せへとつながります。次は、その笑顔になった人が、誰かへ思いやりを分けてあげることで、笑顔になり幸せが実ります。そしてまた思いやりを分けて幸せが増えるのです。こんなふうに、たくさんの人々が思いやりの気持ちを持てば、たくさんの笑顔が生まれて、たくさんの幸せが実り、平和へつながっていくと僕は信じています。

しかし、実は誰もが思いやりの気持ちを持っているのです。でも、その思いやりを言葉や行動に表せるかがとても重要なのです。言葉や行動に表すのは少し勇気がいるかもしれませんが、勇気を出さない限り、ただ思いやりの気持ちを持っているだけです。なので、少し勇気を出してみて下さい。そうすれば、思いやりを言葉や行動に表せる人が増えて、平和に近づいていくと思います。「一人はみんなのために。みんなは一人のために。」この言葉のような世界には、あと何年かかるのか分かりませんが、この言葉を僕は心に刻むので、皆さんも心に刻んでほしいと思います。これからも、僕はラグビーや普段の生活の中で小さな思いやりを言葉や行動に表していきたいです。

優良賞
私自身にとっての弟

御浜町立御浜中学校２年
川　﨑　朱　梨（かわ　さき　あか　り）

私には３才下の弟がいます。その弟についてのいろいろな思いを伝えたいと思います。

私の弟は、ダウン症という障害を持って生まれてきました。生まれたばかりで心臓の手術をして入退院をくり返していたと母から聞きました。そのころは、私も小さく、弟の障害のことは全然分かりませんでしたが、成長していくにつれ、弟の障害のことが分かってきたような気がします。

今弟は、特別支援学校に通っています。その学校は、人数も少なく、保育所からの友達とも別れて、かわいそうだと思ってました。しかし、弟の様子を見ているととても楽しそうに過ごしているように思います。弟は、言葉を話すことができなく同級生の子たちと比べてできないことが多いです。物の見えかたや聞こえかたなど、私たちとは違う感覚を、持っています。そのことは弟にとってとても辛く感じたり不便なのかもしれません。例えば、広い場所や初めて行く場所、人の多い場所や音や声が大きいところに行くと突然泣きだしてしまうこともあります。しかし、弟には、自分とは違う感性を持っているように感じるのです。それは音楽を聞いているときです。そのときの体のリズムや笑顔は、誰にもまねできないくらい楽しそうです。弟は、ほんとに音楽が大好きなんです。それから、弟は、いろんなことに挑戦しています。学校では、日々の生活に役立つことをしています。自分でトイレに行ったり、出した物を片づけたり、弟はがんばっています。これからも学校でいろんなことを学んでほしいです。

今、世界中で差別によって、苦しんでいる人が多くいます。黒人への差別、障害を持っている人への差別、お年よりへの差別など、いろんな差別があります。黒人への差別は、暴力をふるわれたりするニュースをよく見ます。お年よりへの差別は、そう多くはないのかもしれませんが、目が見えにくくなったり、耳が聞こえにくくなったのを、ばかにすることです。そして障害者への差別です。人から変な目で見られたりします。私も、弟といっしょに出かけたりすると、変な目で見られたり、２度見されることもありました。それが嫌で私は家族と出かけることが少なくなってしまいました。なんで、変な目で見られるのか、分かりませんでした。でも、私自身にも問題があると思います。弟のことをはずかしいと思っていたのです。なぜか、みんなに知られるのがこわかったのです。障害者と、障害者でない人を比べたりすることは私にも、あったりします。でも、大事なことは、１人１人と向きあってその人の良いところを見つけることだと思います。だから私も、人と比べたりするのではなく、そ

●部活動や学校外活動	**バレーボール部**
●好きな科目	**体育・数学**
●好きなことや好きなもの	**友達と遊ぶ**
●将 来 の 夢	**まだ決まっていません。**

の人の長所を見つけたいと思います。いろんな差別がありますが、全てをなくすことはできないのだろうと思います。ですが、世界の人々が努力し、協力しあうことで少しは、楽になります。そのために、多くの人が、おたがいを、尊重しあうことが大切です。

私は今、障害を持つ弟を、はずかしいと思いません。弟のことが大好きです。私にとっての弟は特別な存在ではなく、大切な家族の１人です。弟は今、5年生です。これから、どんな風に成長していくか分かりませんが、弟の成長ぶりを、私たち家族で見守っていきます。

優良賞
「平和について」

紀宝町立矢渕中学校３年
佐藤（さとう）　佑（ゆう）

今の日本は平和ですか。平和な日本をこわそうとしていませんか。今、戦争のない日本があるのはどうしてか分かっていますか。今は、そのことをあまり知らない人がたくさんいると私は思います。

「戦争のない日本」とは、昔のような戦争がまたおこることがないように条約を結んだり、憲法をさだめてくださったからではないかなと思います。

昔、おきた大きな戦争「太平洋戦争」についてくわしく知る機会「修学旅行 IN 沖縄」が私たちにあらわれました。事前学習では、DVD「さとうきび畑の唄」や「ひめゆりの塔」を見たり、中田重顕先生の話を聞いたりしました。その話では、こまかくいろんな事を知ることができました。その中でも一番おどろいたことは、三重県からも沖縄戦に行っている人がいたことです。１日目に行った「梯梧の塔」にまつられている昭和女学校の人たちは、三重県の人たちを看護してくれたそうです。私たちは、「梯梧の塔」に行って感謝すべきだと思いました。

２日目に行った「アブチラガマ」は、暗くてせまく、少しひえる所でした。ここで、敵からもこうげきをうけたのに、生きのびた人たちはすごいなと思います。今の私たちは不自由なく便利な環境で過ごせています。だから、ガマのような所で暮らすことはむずかしいだろうなと思います。

こんなひさんな戦争は、嫌な思いしかしません。なのに日本政府の方たちが憲法をかえようとしています。みなさんは、どう思いますか。私は絶対にかえない方がいいと思います。戦争がおこっていた時代に生まれた人たちは、「平和な時代に生まれたかった」と言うと思います。いや、そう思ってとうぜんじゃないかなと思います。そう考えると、絶対に憲法をかえてはいけないはずです。そして、憲法改正に少しでも反対の人は、ちゃんと戦争のことを広めて、憲法をかえないようにしてほしいです。私は本当にそう思いました。

このように、私たちはたくさんのことを知ることができました。けど、知ったことは一部で、そのひさんさは全然わかっていないと思っています。どうしてもそれは経験しないと分からない、そう思います。私は、小学校のときに熊野の人で「せんかん大和」に乗っていた坪井先生の話も聞いたことがあります。

私たちの世代は今後、日本の役に立たなくてはいけません。なので、この小学校で聞いたこと、中学校での修学旅行は、一生の経験になりました。このことを忘れずに生きてゆこう

●部活動や学校外活動	**バスケットボール部・ピアノ・書道・日本舞踊**
●好きな科目	**数学・理科**
●好きなことや好きなもの	**スポーツ（バスケット）**
●将 来 の 夢	**教師**

と思いました。

今、私たちにできることは、「自分の命を他人の命をみんなの命を大切にすること」だと私は思っています。みんな命は一つしかないから、必死に生きています。これからも強く生きてゆかなくては、いけないと思います。そのことのヒントを私たちは今回の修学旅行を通して知ることができたと思っています。

そして、そのことをたくさんの人に教えていくことが大切だと思っていますし、それが私たちが次の代へ受けつがなければならないメッセージです。ずっと、戦争がなく平和な日本が、沖縄の平和の広場から波のように広がることを願っています。

優良賞
私　の　母

鳥羽市立加茂中学校３年
薗（その）田（だ）　あすか

「中途半端は許さへん。」

この言葉は母の口ぐせです。いつもすぐあきらめる私にいつも母が言ってくれる言葉です。母は中途半端が嫌いで、何でもやり通さなければいけないと言います。この母の言葉に何度救われたことでしょうか。数え出したらきりがありません。でも、私が本当にあの時は助かったなぁと思うことがあります。

私が小学校６年生のことです。私はバレーボールスポーツ少年団に入っていました。６年生になってから初めてレギュラーになったので、もちろんみんなよりへたくそでした。何度も失敗をして、何度も怒られました。その時はもういやでいやでしかたありませんでした。バレーに行くその時だけは、いつも気分が落ち込んでいました。練習に行っても怒られ、練習試合でも怒られ、頭の中で、どうしたらいいのかわからないくらい頭がぐちゃぐちゃになって悩んだものです。母に相談しました。母は私が

「もうやめたい。」

と言うと、

「あんたの自由にしたらよい。やけど中途半端は許さへん。」

と言いました。私は矛盾しているじゃないかと思い母に言いました。すると母は

「あんたの姿を見とって、あんたはがんばっとると思う。あんたの意見も通してやりたい。でも、あんたがやめると他の子らが困るんやないか。だから許さへんって言うたんや。」

その時私は思いました。「私は自分の事だけで他の子のことは考えてなかったんだな。」と思い、私は

「もうちょっとがんばってみる。」

と言いました。すると母が

「うん。もうちょっとやってみたら。あんたは出来る子やから大丈夫。」

と言ってくれました。その時に、私は何かが軽くなったような気がしました。心の中で母に何度もお礼を言いました。本当は口に出して言いたかったけれど、母に言葉に出して「ありがとう」と言うとは、大会で勝ってから言いたいと思ったので言いませんでした。

こんなことがあってから、私はずっとバレーボールを続けました。何度も何度も怒られて、何度も泣いたけど、もうやめたいと思うことはありませんでした。とにかく私はがむしゃらに練習をしました。そしてついに念願の全国大会出場が決定した時はうれしくて涙がすごく

●部活動や学校外活動	**ソフトテニス部**
●好きな科目	**美術**
●好きなことや好きなもの	**本を読むこと**
●将 来 の 夢	**画家**

あふれてきました。母が来てくれた時、母は

「ほら、あんたはがんばったら出来る子やったやろ。よくがんばったな。」

と言ってくれました。その言葉がうれしくて、また涙がポロポロとこぼれていきました。母は私を最後まで信じてくれたんだなぁと思いました。だから、私は母に

「ありがとう。」

と言いました。その時、私の心の中には、やっと言えたという、うれしさもあり、言えなくてごめんなさいという思いもありました。母に感謝を伝えた時、母が笑顔でうなずいてくれた姿が今でも忘れません。

今、私は中学校3年生です。中学生になってからも、悩んだり、苦しんだりすることがたくさんありました。そのたびに母が支えてくれました。私には父がいなくて、母だけなので、休む暇もない母が心配です。でも、母はそんな心配もはね返してしまうような人です。とてもパワフルで、元気な母です。そんな母を見ていると、私は力をもらえます。私はそんな母をとても尊敬しています。私も母みたいにすばらしい人になりたいと思います。そのためには、もっと努力し、心も体も今以上に成長しなければなりません。でも、私は何度も壁にあたると思います。その壁は自分自身で乗り越えなければなりません。しかし、くじけるかもしれません。でも、どんなことにも私は、力の限り立ち向かっていきます。

お母さん、そんな時はまた支えてもらってもいいですか。

優良賞
好きなもの

御浜町立御浜中学校３年
仲村凛乃（なかむらりんの）

みなさんは何か好きなものはありますか？スポーツをすることが好き、といった人や、勉強することが好き、といった人など、人それぞれ好きなものは違うでしょう。好きなものなんてない、と思う人もいるかもしれません。

でも、私は出来るならみなさんに、何か一つでも好きなものを持ってもらいたいです。私自身、小さい頃は好きなものも将来の夢もなくて、つまらないなと思いながら、毎日をボーッと過ごしていました。大人からは「無気力」とよく言われました。

そんな私でも、今は大好きなものがあります。それが「本」です。本は私の中で、すごくすごく大切な存在です。そうなったのは、ある出来事がきっかけでした。

小学生の時、私は小さないじめを受けました。クラスのみんなに気づかれないように、二、三人の女の子から、暴言をはかれたり、たたかれたりしました。その子達とは元々仲が良かったので、すごくショックでつらかったことを覚えています。親にも先生にも相談できなくて、一人で悩むことしか出来ませんでした。

そんな時、私はある一冊の本に出逢いました。その本は、ただ学校の休み時間を乗り切るために、と思って買ったものでした。読み始めてみると、すごくおもしろくて、私はその本に夢中になりました。主人公の女の子は「凛ちゃん」といいます。甘いものが大好きで、名前も少し似ている凛ちゃんに、私は少し自分を重ねました。凛ちゃんは、つらいことがあっても、たくさんの友達に囲まれながら毎日楽しく暮らしていました。私はそんな凛ちゃんが、とてもうらやましく思えました。そしてそれと同時に、その本を読むとなんだか元気が出ました。自分が凛ちゃんになれたような感じがしたのです。

私はそれから毎日が楽しくなりました。学校に行くのはまだ少しつらかったけど、「本の中にはたくさんの友達がいる」、そう思うとがんばることができました。何をされてもあまり反応しなくなった私を見て、おもしろくないと思ったのか、しだいにいじめもなくなっていきました。「本」は、暗闇の中にいた私を救ってくれた「ヒーロー」のような存在なのです。

私は「いじめられて良かった」と思ったことは一度もありません。それは、あたりまえのことだと思います。いじめをしてきた女の子達を何度も何度も恨んだし、「いなくなればいいのに」とまで思ってしまいました。でも、今では「まぁ、いいか」と思えるようになりました。そう思わせてくれたのも「本」です。あの時の事がなかったら、本のおもしろさを知ることもなかったんだ。そう思うとあの出来事も無駄じゃなかったと思えました。そして、そ

●部活動や学校外活動	**文化部・フルートサークル**
●好きな科目	**数学・音楽**
●好きなことや好きなもの	**読書・音楽鑑賞**
●将 来 の 夢	**図書館司書**

う思うことができた時、私は心のモヤモヤがスーッと消えていった感じがしました。恨むことしか出来なかった自分が、少し成長できたような気がしたのだと思います。

私は今、すごく幸せです。友達がいて、好きなものがあって、何より、毎日が楽しいと思えることが、すごく幸せだな、と思います。

それに、「図書館司書になる」という夢も出来ました。大好きな本に囲まれて、本の整理をしたり、本をみなさんに紹介したりできるなら、すごく幸せだな、と思うのです。無気力、と言われていた私がこんなふうに考えるようになれたのは、好きなものが出来たからです。

私が一番みなさんに伝えたかったこと、それが、

「好きなものが一つでもあると、毎日が本当に楽しくなる」

ということです。本を好きになって、私の毎日はすごく楽しいものへと変わりました。なので、みなさんにも一つでいいので好きなものを見つけてもらいたいです。スポーツでも、勉強でも、何でもいいんです。好きなものを見つけて、毎日を楽しく過ごしませんか？

優良賞
価値観の違い

桜丘中学校１年
庭田　凜（にわた　りん）

私は、最近ニュースに取り上げられている問題の中で「追い込み漁で捕獲されたイルカの入手が禁止になる」という問題が目にとまりました。イルカの追い込み漁というのは次のような仕組みです。水中で金属製の棒の音を鳴らすようにたたきます。するとイルカは、特有の音波探知能力が乱れパニック状態に陥ります。そのイルカの群れを、複数の漁船で湾内や港に追い込み、漁網で入り口をふさいで一気に捕まえるという方法です。この漁に対して、世界動物園水族館協会（WAZA）は、「イルカをおびえさせ、一網打尽にする行為であり残酷だ」と主張しています。断片的に情報を収集すれば、ニュースの報道の印象ではそう思うかもしれません。しかし日本は伝統的な海洋文化や食文化を培ってきました。イルカやクジラ類に対しては、「海洋資源」という意識が実際に生きています。また日本国内の水族館ではイルカを飼育しているところが多く、イルカは訪問する客を楽しませる「花形」としての側面があります。そのため「追い込み漁で捕獲されたイルカの入手禁止」という WAZA の主張をそのまま受け入れてしまうと繁殖に頼らざるを得なくなります。イルカの繁殖は非常に難しいのが現状です。繁殖用プールがない施設、雌しか飼育してない施設も多く、技術的な問題だけでなく設備的な問題も大きいとされています。そのため、イルカの確保が難しくなった場合、施設によっては集客の目玉を別の動物に切り替えるなど影響を受ける可能性があります。私たちにとってイルカの存在が遠いものになりうるのです。ではなぜ、外国側はイルカに関して、ここまで強く日本側に要求してくるのでしょうか。実は、欧米諸国では「イルカは野生生物の中でも特に知能が高く、人間に近い存在」という認識がもたれています。そのため人間とほぼ同じ存在という位置付けをされているイルカをおびえさせ、一網打尽にすることが「残酷」と捉えられるのです。一方、日本では、イルカやクジラ類などの哺乳類でも「海洋資源」と古くから解釈されています。ここに国土による価値観の違いが生まれているのです。お互いの文化や思想に基いた主張のため、意見が衝突し、折り合いをつけることが難しくなることがあります。しかし、このような「価値観の違いから生まれる衝突」については、どちらが正しい、どちらが間違っているという問題ではないと私は思います。どちらも自国の意見を尊重したいという思いからの衝突だからです。追い込み漁の事に関しては、日本動物園水族館協会に加盟している水族館の中には、伝統を守るため、又は営業面における損失の防止から、脱退を検討している施設もあります。脱退を検討している一つの水族館は「合法的な入手を一方的に禁止することは疑問。話し合えない WAZA とつながる必要が

●部活動や学校外活動	**放送部**
●好きな科目	**数学・理科**
●好きなことや好きなもの	**そろばん**
●将 来 の 夢	**医者**

あるのか」と話しています。

私たち世界の中でのこれからの課題は「自国の伝統を守りつつ他国の意見も尊重する」ということです。この課題は矛盾めいているため非常に難しい状況にもなります。あらゆる物事において国により人により価値観は異なります。その価値観の違いを互いに指摘し、むやみに批判していては解決することはできません。まずはお互いに相手の価値観を「新たな考え方として学ぶ」という姿勢が重要なのです。お互いを知った上で、それぞれの主張をし、前向きな着地点を見つけること、それが求められます。みなさんも、社会に起きているニュースに注目して価値観の違いについて考えてみてはどうでしょうか。

優良賞
平和な未来のために

四日市市立桜中学校３年
橋（はし）　本（もと）　さつき

私たちは、平和な時代に生まれて、今も、平和の中で生活しています。だから、実際に“戦争”がどれほど恐ろしいものなのか、私には分かりません。学校の授業でも、戦争について学んできました。が、それは「戦争があった」という歴史的事実であり、身近で起こったことではありませんでした。

私の祖母は、戦争を体験した世代です。そしてよく、私に話してくれます。中でも四日市空襲の夜の話は、心に残っています。

「夜中に空襲警報のサイレンが、不気味に鳴り響いて、爆弾が雨みたいに降ってくる中を、お姉さんに引っぱられて走ったんだよ。あの時は本当に怖かった。あんなに恐ろしいことはもう二度とあって欲しくない。」

と辛そうな顔をしながら話すので、私も聞くたびに悲しい気持ちになります。

当時の祖母は５歳だったそうです。太平洋戦争が終わり、70 年も経つのに、祖母はその時の情景を今でも、鮮明に覚えているのだと思うと、どれだけ恐ろしかったのか、よくわかります。

戦争を体験した記憶を伝えられる人は、年々、少なくなっています。だから、直接話を聞いた私たちが、次の世代へと体験を語り継いでいかなければなりません。そして、二度とこのような恐ろしい戦争を起こさぬように、行動していかなければなりません。

しかし最近、テレビや新聞などで「集団的自衛権」という言葉をよく目にします。「集団的自衛権」とは、日本が同盟を結ぶ国が、武力攻撃を受けた場合に、直接、攻撃を受けていない第三国が協力して防衛を行う。というものだそうです。私にはこのことが、具体的にどれほどの意味を持つのか、正直、分かりません。でも、簡単に言えば「日本が戦争することのできる国になる」ということのように感じます。あの戦争から 70 年間もかけて築き上げてきた「戦争をしない」という、これまでのこの国の在り方とは、全く違う方へと進んでいるのではないでしょうか。

これからの日本が「戦争をすることが可能だ」ということは、私たちも祖母と同じ恐怖を、体験しなければならないときがくるかもしれない。ということになります。もしそうなれば、私たちの未来は大きく変わってしまうのでしょう。夢も希望も失い、悲しみだけが大きな爪痕として残るのです。そんな未来は絶対に来て欲しくありません。

世界では、今も争いが絶えない地域があります。そのような地域を取材したニュースを見

●部活動や学校外活動	**ソフトボール部**
●好きな科目	**英語**
●好きなことや好きなもの	**短距離走・ピアノ**
●将 来 の 夢	**薬剤師**

て、私は心が痛みました。なぜなら、私と同じ年頃の少年が、当たり前のように銃を持っている姿が映っていたからです。現地の人々は何年、何十年とおびえながら生活をしています。そんな生活をしなければならないなんて、私だったら耐えられません。兵器を買うお金があるのならば、国民の生活のために何ができるのかを考えてほしいと思います。

そもそも、戦争や紛争で本当の勝敗が決まるのでしょうか。ただ意味もなく、たくさんの人々の命だけを奪って、国民を恐怖のどん底におとしいれているだけのように思えます。そのような事実を知れば知るほど、「今の日本は、平和で恵まれた国なんだ。」と感じます。

“戦争”というものがあることで、何の罪もない人が何百人、何千人と殺されなくてはならないのは、やっぱりおかしいと思います。何か揉め事があったときに「戦って決着をつけよう」ではなくて、武力を使わない、他の方法で平等に決められるような世界にして欲しいです。その方法を、世界中の人とともに考えていけたらいいと思います。

私たちはあと数年で社会へ出ていきます。そのときに「戦争はもう決して起こしてはならない」ということを世界に訴えていくべきです。そのために私たちは今、平和の中で生きる豊かさ、そして、戦争の無意味さを考え過去に日本で起こった恐ろしい戦争の記憶を永遠に語り継いでいくべきだと思います。

優良賞
僕の町「助け合う心、思いやる心」

熊野市立五郷中学校１年
三　鬼　裕泰郎（みき　ゆうたろう）

僕の住んでいる熊野市五郷町は、熊野市の山間部、奈良県との県境にある、人口約 800 人ほどの自然豊かな田舎町です。その中で高齢者の数は、約 3 分の 2 にもなり、高齢化が進んでいます。

町には食品を扱う店が 3 軒しかないので、かなりの距離を歩かなければ買い物ができない方もいます。高齢の方にとっては、とても負担が大きいと思います。

これまで僕は、買い物袋をさげて歩いている高齢者の方を見ても「大丈夫ですか？」と声をかける勇気がなく、ただ大変そうに歩いているのを見ていることしか出来ませんでした。

このように勇気がなく言えないことを僕は毎日のようにどうすればよいかを考えていました。

ある日、学校からの帰り道のことです。その日は終業式で、僕はたくさんの荷物を持って歩いていました。すると、後ろから自転車にたくさんの袋を載せたおばさんが通りかかり、

「その荷物持ったろか。」

と言って、荷物を持ってくれました。その時、僕は感謝の気持ちと、「こんなにすっと『持ったろか』なんて言えるってすごい！」と思い、とても感動しました。それからというもの僕は、重い荷物を持っている人がいれば、積極的に声をかけてみようと思うようになりました。

しかし、声をかけるのはそんなに簡単なことではありません。心では「声をかけよう」と思っても体が動かず、どうしようと考えている間に、結局行ってしまうということが、何度か続きました。

でも、ついに僕は、

「大丈夫ですか。」

と重い荷物を持ったおばさんに声をかけることが出来ました。すると、おばさんは、

「別にええで。大丈夫やで。ありがとうね。」

と言ってくれました。その時、これまで胸につっかえていたものが取れたように気持ちよくなり、スカッとすごく明るい気分になりました。その瞬間、ひとつのキーワードが浮かんできました。

「助け合う心、思いやる心」

この経験により、僕は今までより成長したように思います。

それからは、学校の行事での地域の方との交流などでも、積極的に声をかけることを心がけ、今では自然に接することが出来るようになりました。

●部活動や学校外活動	**テニス部**
●好きな科目	**数学・理科・社会・国語**
●好きなことや好きなもの	**プラモデル作り**
●将 来 の 夢	**作家・小説家・書くことに関連する仕事**

2011年に、紀伊半島を襲った台風12号で、僕の町は、橋が流されたり家が水につかったりと、大きな被害が出ました。僕の家でも停電や断水で、普通の日常ができなくなりました。これまで当たり前のように使っていた電気や水がなくなると、こんなに不便になるなんて想像もしていませんでした。水がなくて困っていたとき、近所の人が山から引いている水を分けてくれました。「遠くの親戚より近くの他人」ということわざがあります。この時つくづく、近所付き合いは大事だなあ。と思いました。自分たちも大変な状況でありながら、他の人に優しくしてくれる。本当にすばらしいことだと思い、「助け合う心、思いやる心」を感じた瞬間でした。

このような経験から、僕はこの町に住んでいる人たちの優しさを実感しました。僕の周りにはこんなすばらしい人たちがいて幸せです。

ニュースや新聞では、21世紀中にも東海、東南海地震が発生する可能性が高いと報道されています。僕たち中学生も日頃から地域の皆さんと連携を深め、災害時には困っている人の役に立ちたいと思っています。

また、災害時だけでなく、これからは一日に一度は「ありがとう」と言ってもらえるようにしていきたいです。

「助け合う心、思いやる心」この二つの心を大切にし、これからも積極的に五郷の町の人たちと交流していきます。

審査委員の講評（順不同・敬称略）

【審査委員長】 西　　孝（三重大学社会連携研究センター　社会連携特任教授）

応募した三重県内の 7,885 人のなかから最優秀賞として選ばれたのは、紀北中学校 3 年生、小谷原ひな子さんの「おかえり」でした。小谷原さんの発表の内容は、彼女が小学生のころ、病気と闘いながら帰らぬ人となってしまった母親に対する追慕の念と闘病中の母に対する自分の対応を振り返りながら、「おかえり」と迎えてくれる母がいることが当たり前ではないのだと気づいたことなどを述べるものでした。母に悩みについて相談したり、母の手料理が食べられることがどんなに幸せなことかを、感情を抑制しながら訴えるところは、深く共感を与えたものと思われます。

導入部分を、「おかえり」と、そのあとの話の展開に関心を持たせるように始め、最後は、友達に、「もし願いが一つだけ叶うなら」と聞かれ、口には出さなかったが「心の中で迷わずにこう答えました。もう一度だけ、母の『おかえり』が聞きたいと。」という締めくくり方で、会場の聴衆の涙を誘うものでした。論旨だけでなく、このような聴衆に働きかけるスピーチとしての完成度の高さが、審査員の高い評価を得た大きな要因であったと思われます。

他の 13 人の発表も、内容において素晴らしいものが多数あり、感心しながら拝聴しましたが、発表の態度、論調、聞かせ方という点では、最優秀賞に及ばなかったということでしょう。

最優秀賞のほか、優秀賞 3 人、優良賞 10 人の発表で気がついたことや他の審査員の方のご意見等を紹介すると以下の通りです。まず論旨は全体にまとまっているものの、テーマについて議論したり、本を読むなどして、多面的な検討をしたかどうかが評価を分ける要素になったものと思います。読書は思索を助けるといわれる所以です。

テーマは、家族のことや「スマホ」の利用にかかわる身近なことから、安全保障関連法案や戦争と平和、ペットの殺処分などの社会的テーマを他の国々との比較で論じる、社会問題に対する関心の高さ、勉強や思索の跡がうかがわれるものも目につきました。

審査のなかで、タイトルの付け方はもう少し具体的であるべき、あるいは内容と少しずれたものがあるとの指摘がありました。発表の仕方、態度は、原稿に頼りすぎず、聴衆をみながらの発表が多く、練習の跡がうかがわれました。

最後に、今年度も、主催者の三重こどもわかもの育成財団の方々はじめ、開催地である御浜町および熊野市、紀宝町内の中学校の生徒、青少年育成市町民会議、教育委員会をはじめとする教育、学校関係者の多くの方々が、何度も会合を重ねて準備され、当日の円滑な運営を実現したことに敬意を表さずにはいられません。

【審査委員】 間野　丈夫（三重テレビ放送株式会社　取締役）

離別、挫折、失敗、みじめな思い。つらい体験には力があります。それらを語ることは本人の癒しにもつながるでしょう。今回の中学生のメッセージでも、家族との死別という苦しい体験をへて成長するストーリーが、聞く人に大きな感動を与えました。一方で、平和の問題をテーマにした発表も目立ちました。こうした硬いテーマで共感を得るのは難しいのですが、生徒たちからは、自分の身近な問題として考えようという気持ちが強く伝わってきました。

「あの時いじめられていなかったら、本に出逢うこともなかったんだ。そう思うと、あの出来事も無駄なことじゃなかったと思えました」。本の世界との出会いが、いじめの暗闇から救ってくれたという仲村凜乃さん（御浜中３年）の発表にあった言葉です。どんなにつらい体験だって、決して無駄ではない。私はこの言葉をすべての中学生のみなさんに贈りたいと思います。

【審査委員】 岡村　昌和（三重県健康福祉部子ども・家庭局　局長）

会場の前に広がる熊野灘の陽光のように、眩しくきらめくメッセージがいっぱいの素晴らしい大会でした。

発表された皆さんには、自分のこれまでの体験をこれからの行動や生き方につなげていくという強い意志が感じられました。

また、その体験がたとえつらいものであったとしても、逃げることなくしっかりと受け止め、落ち着いて語る姿に感動を覚えました。

発表は家族、学校、地域など身近なものから、グローバルな視点、社会的な視点のものも多く多様な内容でしたが、いずれも中学生のみずみずしい感性で物事をとらえ、「自分ならどうする」という当事者としての意識で考え行動していくという思いにあふれ、三重県の将来に希望を感じさせてくれるものでした。

皆さんにはこれからもこの気持ちを忘れず、また、相手に自分の考えをしっかり伝えていくことの大切さを忘れず、たくましく未来を切り開かれることを期待しています。

【審査委員】 西　　章（紀宝町教育委員会　教育長）

第 37 回少年の主張三重県大会の場で発表していただきました 14 名の皆さんに、まずお礼を申し上げたいと思います。発表するに当たりましては自分の考えを限られた一定の量にまとめる作業、その中でいかにして自分の思うところを対象に届けるかという点での試行錯誤にも近い内面的作業、実際に壇上に上がったことを想定しての話し方等々、多くの時間と労力を費やした結果があのすばらしい発表に繋がったことと思います。

中学生にとっての今日的課題と言われる様々な社会事象について、自分の感覚でとらえるなかで共に考えようと訴えた人、また自分の置かれた生活環境について、振り返るには相当の覚悟と勇気が必要だったと思われることを、淡々とした話し方で周りの人の心情にも思いをはせながら語ってくれた人、皆さん一人一人の思いはそれぞれ固有のかけがえのない人生経験の一部として、重くそして感動を伴って伝わってきました。

今回の「主張」の応募総数は 7,885 点と聞いております。発表の場には出ませんでしたが、皆さんの作品すべてが柔軟で豊かな感性に基づいた、よりよい社会の実現に繋がる思いが凝縮されたものであったと思います。

今後とも、この「中学生のメッセージ」が、これからの社会をつくっていく若者たちの思いの発表の場、また交流の場としてより良く機能し、さらに発展することをご期待申し上げ、最後になりましたが本大会の開催に向けてご尽力をいただきました全ての皆様方に感謝申し上げまして、お礼の言葉に代えさせて頂きます。ありがとうございました。

【審査委員】 室谷　隆子（三重県小中学校長会　熊野市立入鹿中学校　校長）

皆さん、とても堂々と自分の思いを伝えてくれました。ラグビーボールを持って登場したり、まるでアナウンサーかと思うほど、抑揚のある魅力的なスピーチがあったり、思わず涙がこぼれるような発表があったりと、あっという間の 1 時間 30 分でした。14 人の皆さんが自分の経験をしっかりと受け止め、自分自身としっかり向き合い、深く考え、平和のこと、ニュースから考えたこと、差別のこと、家族のこと、携帯端末機の危険性、住んでいる地域のこと、自分の生き方や将来なりたいことなどいろいろな切り口で自分の思いを語ってくれました。発表者の 14 人をはじめ司会の中学生、デザイン画を描いた中学生、花の窟を紹介した中学生、すてきな演奏を聞かせてくれた吹奏楽部の皆さん等たくさんの中学生の活躍を見て、とても嬉しくなりました。ありがとうございました。

【審査委員】 藤井　大造（三重県 PTA 連合会　常任幹事）

驚いた。

中学生 14 名の発表を全て聞いた率直な感想だ。

自分が経験したことや日々感じたこと様々なことを作文にまとめ、それぞれの表現で聞かせてくれた。

皆、個性があり、様々な魅力を持っている。

作文だけでは見えなかったものが発表する場で見えてくる。

強い思いや動きが言葉に乗り、こちらに伝わってくる。

中学生の熱い思いがこちらに伝わってきて、自分の中学生時代を思い出させてくれた。

本当は審査員などせずにじっくりと皆の発表を聞きたかった。

発表した中学生だけでなく運営、吹奏楽、ふるさと案内、絵での表現

様々な形で同じ中学生が活躍してくれた。

ありきたりだが、若いっていいよなあ、２度とない青春時代を懐かしむ機会を与えてくれた審査員依頼に感謝します。

【審査委員】 池上　妙子（三重県私学協会　メリノール女子学院中学校・高等学校　教諭）

どの発表者も、自分の体験に学び、考える機会を得たことが感じられ、聞きごたえのある良い発表でした。中学生らしい素材で、自らを省みつつ社会的な広がりを見せる思考の展開に、大変好感が持てました。

ただ、「スピーチ」という表現方法は、作文、小論文とは異なり、読み返すことができない、「音」による直接伝達です。聴衆全員を見ながら、耳で聞いてわかりやすい表現で訴えること、自分の声の質や音程に合った言葉を選ぶこと、流れやリズム、速さの緩急などに配慮した発表になるよう工夫すること。（マイク使用の場合、声の大小よりも「間」が大事です。）こうした音声言語による発表の特徴も考えに入れると、完成度が高まると思います。今後に期待します。

【審査委員】 赤沼　寛子（三重県教職員組合　書記次長）

14 人のみなさんの発表は、どれも聞き入ってしまうものばかりでした。みなさんは、きっとメッセージを言葉にしていく過程で、時間をかけてじっくり自分と向き合ったのだろうと感じました。家族のこと、友だちのこと、身の回りで起こっているさまざまな問題を、自分はどう考えているか、なぜそう考えるのか、そして自分はどうしたいのか。そんな葛藤があったからこそ、聞いている人たちの心に響く発表であったのだろうと思います。

また、運営に関わっていただいた地元の中学生のみなさん一人ひとりからも、大会を盛り上げるために当日まで努力を積み重ねてこられた様子が伝わり、あたたかい気持ちになりました。

中学生のみなさんとわたしとでは、年齢も立場も違いますが、ともに社会をつくっていく者として心強く思いました。みなさんとつくる未来が楽しみです。本当にありがとうございました。

【審査委員】 水元　　正（公益財団法人三重こどもわかもの育成財団　副理事長）

今年の発表は、最近の情報を的確に捉え、それを自分の体験等学んだことから問題提起し、中学生の感覚でさらに発展させ、自分はこう思う、こうしたいと締めくくって感銘を受けました。来年から、18 歳以上の人に選挙権もあり中学生もすぐ選挙、政治にかかわりを持つ、関心を持つ事の重大さを感じているかのようにマスコミ等の情報を取り込んでいると感じられました。

また、中学生の悩み、友達環境等今まさに苦しみぬいて光の見える方向へと向かっていくんだという決意もうかがえて非常によかったです。自分自身の体験から、問題解決の為にどうしたか、また、どうなったか、これからの事も考え社会に貢献するんだとの意気込みが感じられました。

中学生のメッセージを盛り上げ、実行していただいた中学生の皆さん本当に感謝申し上げます。また、実行委員の皆さんご苦労様でした。

大会を迎えるまで

作品募集ポスター

H27. 3 月、前回開催桑員地区から
バトンが渡されました。

H27. 1 月、募集開始

紀南地区中学生のメッセージ実行委員会は、御浜町中央公民館にて、
5回に渡り開催されました。

H27. 6 月、デザイン画審査会
紀南地区の 3 中学校から 28 作品の
応募がありました。
力作が多数揃い、和気あいあいの
雰囲気の中、実行委員の皆さんに
よる審査が行なわれました。

大会案内チラシ

大会当日プログラム

今年は、
コンピュータグラフィックを駆使した
楽しく夢のある作品が選ばれました。

H27. 7 月、中央審査会
８名の審査委員の方々には、地域優秀作品審査会
を通過した40作品の中から、14作品を選出いただ
きました。

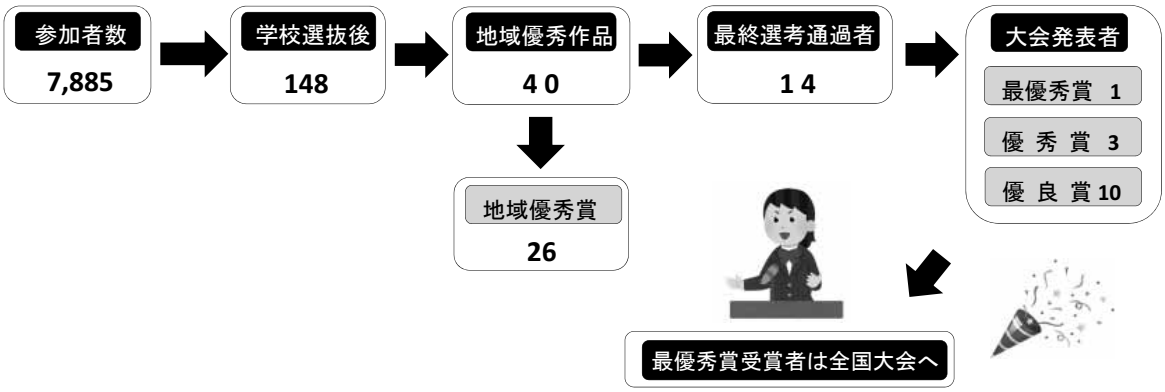
大会概要及び審査基準

1　応募の状況

（1）応募者数

地区名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
北　　勢	4,495	4,734	3,519	6,717	3,772
津	909	373	778	462	327
松　　阪	33	3,502	603	533	534
南勢志摩	359	290	277	247	255
伊　　賀	3,211	1,560	2,027	1,835	2,009
紀　　北	319	290	359	360	291
紀　　南	244	328	225	197	697
計	9,570	11,077	7,788	10,351	7,885

（2）選考の過程



2　審査基準及び審査委員

(1) 審査基準

１・２は地域優秀作品審査会及び中央審査会の応募作品の審査基準
１・２・３は三重県大会の基準

１【論旨】
① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
② 新しい情報や視点があるか。
③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

２【論調】
① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
② 説得力のある話し方であるか。
③ 話しぶりに熱意と迫力があるか。

３【態度】
① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

(2) 審査委員の皆様

審査委員長	西　　孝	三重大学社会連携研究センター　社会連携特任教授
審 査 委 員	間野　丈夫	三重テレビ放送株式会社　取締役
	岡村　昌和	三重県健康福祉部子ども・家庭局　局長
	西　　章	紀宝町教育委員会　教育長
	室谷　隆子	三重県小中学校長会（熊野市立入鹿中学校　校長）
	藤井　大造	三重県 PTA 連合会　常任幹事
	池上　妙子	三重県私学協会（メリノール女子学院中学校・高等学校　教諭）
	赤沼　寛子	三重県教職員組合　書記次長
	水元　　正	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団　副理事長

3　地域優秀賞受賞者一覧

No.	学 校 名	学年	名　前	タイトル
1	桑名市立光風中学校	3	伊藤　千夏	中学生の居場所
2	桑名市立光風中学校	3	堀江　ゆうみ	「障がい者」のあたたかさ
3	桑名市立多度中学校	3	関　裕心	今、僕らや大人は何をすべきか
4	桑名市立長島中学校	3	伊藤　有生	世界に幸せが満ちる時
5	四日市市立富洲原中学校	2	小川　愛稀	自分の行動に責任をもつこと
6	四日市市立富洲原中学校	2	間瀬　萌々子	将来の仕事
7	四日市市立富洲原中学校	3	伊藤　穂乃花	笑顔は世界の共通語
8	四日市市立富田中学校	2	森　梓美	自分が自分を
9	四日市市立三重平中学校	3	髙重　有沙	「将来の夢」って何？
10	鈴鹿市立平田野中学校	2	森　智哉	理想イコール現実
11	津市立朝陽中学校	3	鳥居　春花	自分で守る
12	津市立白山中学校	3	曽根　安紗美	世界を見つめて
13	セントヨゼフ女子学園中学校	3	木村　絵里	若者が夢を追うこと
14	多気町松阪市学校組合立多気中学校	1	歌納木　彩乃	やれば、できる
15	多気町松阪市学校組合立多気中学校	2	池下　日和	マララのメッセージから学んだこと
16	多気町松阪市学校組合立多気中学校	3	井上　寧音	「夢計画」
17	伊賀市立霊峰中学校	3	田中　寿弥	テストで点数をとれる人だけが医者になる世の中でよいのか
18	名張市立名張中学校	2	松宮　智佳	世界の教育問題と向き合う
19	紀北町立赤羽中学校	3	久保　華香	私が思う「少年法」
20	紀北町立赤羽中学校	3	橋倉　郁人	変わりゆく規則と変われる私たち
21	紀北町立潮南中学校	3	川井　涼花	いじめに対する意見と命へのメッセージ
22	紀北町立三船中学校	3	山口　華穂	「平和」を「学習」することで
23	熊野市立有馬中学校	3	牧野　陸	お母さんの大変さ
24	熊野市立飛鳥中学校	1	森本　愛美	世界に平和の輪を築く
25	御浜町立尾呂志学園中学校	2	坪内　稚葉	私の夢
26	紀宝町立矢渕中学校	3	荘司　ちひろ	「沖縄戦と日本の平和」

4　学校奨励賞受賞校一覧

No.	学　校　名
1	桑名市立明正中学校
2	桑名市立光風中学校
3	四日市市立塩浜中学校
4	四日市市立富洲原中学校
5	四日市市立富田中学校
6	四日市市立西陵中学校
7	四日市市立三重平中学校
8	鈴鹿市立神戸中学校
9	鈴鹿中学校
10	津市立美杉中学校
11	松阪市立大江中学校
12	多気町松阪市学校組合立多気中学校
13	多気町立勢和中学校
14	皇學館中学校
15	鳥羽市立加茂中学校
16	桜丘中学校
17	名張市立名張中学校
18	名張市立赤目中学校
19	名張市立桔梗が丘中学校
20	名張市立北中学校
21	名張市立南中学校
22	紀北町立赤羽中学校
23	紀北町立三船中学校
24	熊野市立新鹿中学校
25	熊野市立有馬中学校
26	熊野市立神上中学校
27	熊野市立五郷中学校
28	熊野市立飛鳥中学校
29	御浜町立御浜中学校
30	御浜町立阿田和中学校
31	御浜町立尾呂志学園中学校
32	紀宝町立相野谷中学校

※学校奨励賞は、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上）が受賞されました。

大会メモリアル　御浜町中央公民館　2015.8.23

9：00　運営協力中学生が全員集合しました。

海に面した大会会場

エイエイオー！

9：30　朝の打ち合わせで気合いを入れます！

受付・案内担当の打ち合わせも真剣です。

9：30　司会のリハーサル開始
大役を果たすため真剣そのもの

本番にむけてリハーサル

10：45
太田理事長より発表者へエールが贈られます。

深呼吸～！自然体でいつもの力を発揮してくださいね

10：30　発表者が次々と到着

舞台に立って、ドキドキ…

青い空、水平線、波しぶき…熊野灘の雄大な風景
台風上陸が心配されましたが、晴天に恵まれました。

2時間にわたるリハーサル、すごい集中力です。

11：30
審査委員も到着です。

11：30
リハーサル終了。
みんなでランチタイム！

今年もたくさんの感動をありがとうございました。
大人はサポート、そこから生まれる温かい交流。

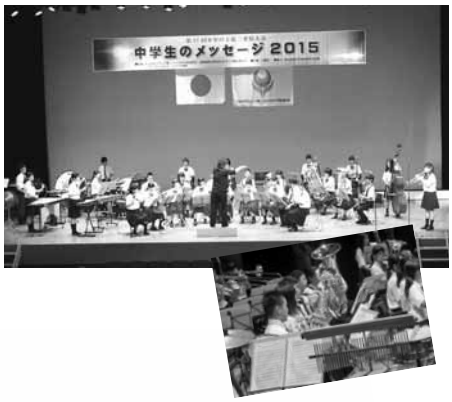
中学生が主役！

次回開催三泗地区に
バトンが渡されました。

15：35　表彰式＆講評

只今、厳正なる審査中！

15：00
パフォーマンスもあり、素晴らしい吹奏楽演奏



運営に参加してくれた皆さんに
感謝状が渡されました。

記念撮影

運営参加協力として支えていただいた皆さん

14：45

「わたしたちのふるさと案内」
世界遺産「花の窟」を
笑顔でガイド

熊野市立有馬中学校３年
山口智せさん（右）
西垣内優磨さん（左）

【司会・受付・案内】
御浜町立御浜中学校
御浜町立尾呂志学園中学校
御浜町立阿田和中学校
【吹奏楽演奏】
紀宝町立矢渕中学校
【デザイン画】
熊野市立有馬中学校３年　若山のどかさん
【デザイン画協力】
熊野市立有馬中学校、熊野市立木本中学校
紀宝町立矢渕中学校

13：20　14名の発表が続きます。
思わず涙ぐむ姿も見られるほど、心に響く内容です。

審査委員の皆さん

発表者の皆さん

12：00
手話通訳の皆さん、
シナリオ片手に打合せ

13：00　いよいよ開会です。

12：30　開場
受付しっかりこなしてます！

地元中学生も多数集まってくれました。

ロビーでのデザイン画展
力作ぞろいです！

中学生への応援メッセージ

中学生へ三重県知事様、三重県議会議長様、協賛企業・団体様から
あたたかい応援メッセージをいただきました

輝け！青春の１ページ！
未来は君たちの
手の中にある！

三重県知事
鈴 木 英 敬

それぞれの夢に向かって
思いっきり羽ばたこう！

三重県議会議長
中 村 進 一

信念を礎に未来を見つめ
常に新しい行動を

岡本土石工業株式会社

人生は、夢だらけ。

株式会社かんぽ生命保険三重支店
支店長　松 井 隆 宜

この体験を生かし
自分を信じて
躍進しよう！

熊野ライオンズクラブ
会長　宇 城 基 悦

いつでも挑戦を
続けること、
それが未来の
あなたの力になる。

新日本工業株式会社

可能性は無限大
輝く未来につきすすむ
あなたを応援します！

ＪＡバンク

この体験を生かし
すばらしい人生を築こう！

田端創建株式会社
社長　田 端 稔 充

第三銀行は
夢を追いかける
あなたは応援します！

株式会社第三銀行

いちばんいけないのは
自分なんかだめだと
思い込むことだよ。

千巻印刷産業株式会社
代表取締役　塚 本 征 也

君たちには
輝ける未来がある
夢は自分の手
でつかみ取ろう

株式会社津松菱
代表取締役社長　西 村 房 和

道は一つではない

日本土木工業株式会社

果てしない
希望と未来を
応援します！

パイロットインキ株式会社
津工場長　太 田 義 之

平 常 心 是 道

丸 安 青 果

未来の窓を開けるのは、
君たちだ！

公益社団法人三重県医師会

色んなことに挑戦し
自分の信じた道を進もう

特定非営利活動法人
三重県歯科衛生士会

君たちは未来の宝
健やかに育て！

一般社団法人三重県薬剤師会

希望に向かって
自分の信じた道を

三重信用金庫

温 故 知 新

有限会社御浜柑橘

敬称略、五十音順

協賛企業・団体紹介　※五十音順

岡三証券 OKASAN SECURITIES	岡本土石工業株式会社	かんぽ生命	株式会社ぎゅーとら
熊野ライオンズクラブ	伝える喜び、これからも 新日本工業株式会社	JAバンク	田端創建株式会社
第三銀行	CHIMAKI 千巻印刷産業株式会社	松菱	株式会社ナカムラ
日本土木工業株式会社	PILOT	百五銀行 FRONTIER BANKING	北越紀州製紙株式会社 洋紙事業本部 紀州工場
丸安青果	(公社)三重県医師会	特定非営利活動法人 三重県歯科衛生士会	(一社)三重県薬剤師会
三重交通	三重信用金庫	(有)御浜柑橘	ゆうちょ銀行

本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。

参 考 資 料

中学生のメッセージ 2015（第 37 回少年の主張三重県大会）実施要項

１．目　的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として実施します。

２．主　催　公益財団法人三重こどもわかもの育成財団・紀南地区中学生のメッセージ実行委員会

独立行政法人国立青少年教育振興機構

３．共　催　三重県

４．協　力　青少年育成市町民会議

５．後　援　三重県教育委員会・熊野市教育委員会・御浜町教育委員会・紀宝町教育委員会

三重県私学協会・三重県小中学校長会・三重県 PTA 連合会・三重県教職員組合

NHK 津放送局・三重テレビ放送株式会社

６．大会期日・場所

期日　　平成 27 年８月 23 日（日）

場所　　御浜町中央公民館　アメニティーホール（南牟婁郡御浜町大字阿田和 4926－1）

７．応募資格

県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある方。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、平成 26 年度在籍の３年生は応募できません。

８．応募内容

① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。

② 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど。

③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

９．応募方法

（1）1 人 1 点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議（以下、市町民会議という）等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できます。

（2）原稿用紙は、A4 版 400 字詰め原稿用紙３枚半以上４枚半以下で縦書きに清書してください。詳しくは、別紙１の原稿用紙記入方法を参照してください。

（3）各学校等において 3 点以内に選考し、応募作品一覧（別紙２）を添付のうえ、下記提出先に提出してください。

（4）提出先・提出期限

・各中学校等は、平成 27 年６月５日（金）までに当該地域の市町民会議に提出してください。市町民会議は作品を取りまとめ、６月 10 日（水）までに公益財団法人三重こどもわかもの育成財団（以下、育成財団という）へ提出してください。

・市町民会議の連絡先については、別紙３を参照してください。

１０．地域優秀作品審査会

地域優秀作品審査会は育成財団で行い、提出された作品の中から 40 人程度を選考します。

１１．中央審査会

中央審査会は育成財団で行い、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成し、提出された作品の中から「中学生のメッセージ」で発表する 14 人と地域優秀者 26 人程度を選考します。なお、発表者へは７月上旬に連絡します。

１２．「中学生のメッセージ」における発表及び三重県大会審査

（1）大会発表者は「中学生のメッセージ」において、自らの作文をもとに発表します。また作文をもとにした発表方法に加えて、パフォーマンス（写真を使用したパネル説明や小道具を使用する等）を取り入れてもよいこととします。なお、準備の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

（2）大会当日、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成する審査委員会で審査を行い、各賞を決定します。

（3）審査基準は以下の通りです。

【論旨】

① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
② 新しい情報や視点があるか。
③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

【論調】

① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
② 説得力のある話し方であるか。
③ 話しぶりに熱意と迫力があるか。

【態度】

① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

地域優秀作品審査会及び中央審査会の審査基準

三重県大会の審査基準

１３．「少年の主張全国大会」への推薦

「中学生のメッセージ」の最優秀者は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者（中部・近畿ブロック審査応募作品）として推薦します。ブロック代表者（各ブロック 2～3 人）に選ばれた場合は、東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表していただきます。

１４．表彰

（1）三重県大会の審査委員会で審査のうえ、「最優秀賞」（１人）、「優秀賞」（３人）、「優良賞」（10 人）を決定し、賞状と副賞を贈呈します。

（2）大会発表者以外の地域優秀者には「地域優秀賞」として、賞状と副賞を贈呈します。

（3）積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の 50%以上とする）に「学校奨励賞」として、賞状と副賞を贈呈します。なお、作品応募者全員には、参加賞を贈呈します。

１５．その他

（1）応募作品の返却はしないのでコピーをして保管してください。

（2）大会前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。同様に、大会後、大会の結果、発表作品（最優秀賞）、発表者・入賞者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。

（3）大会後、大会発表者の発表作品や写真を掲載した発表作品集を作成し、県内中学校や関係機関等に配付します。その他、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。

（4）当事業に協賛いただける企業・団体を募集します。協賛いただいた企業・団体にはパンフレット、広報誌、作品集等で名称を紹介させていただきます。

第37回
少年の主張全国大会
～ わたしの主張 2015 ～

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

内閣府子ども・若者育成支援
強調月間（11月）関連事業

平成27年11月8日（日）13：00～
国立オリンピック記念青少年総合センター

ひびけ あなたの心に 私の想い！

プログラム

13:00 開会

13:20 主張発表
（12名の中学生が“わたしの主張”を発表します）

15:00 努力賞表彰式

15:20 審査発表及び表彰式
（内閣総理大臣賞を含む三賞を発表します）

16:00 閉会

大会のねらい

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、わが国の社会や国際的な環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心をもち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身に付けることが大切です。

これらの契機となることを願い、また、過去36回の実績を踏まえ、「少年の主張全国大会」を実施します。

発表者（発表順）

1 岡山県代表

小村　駿介
倉敷市立庄中学校　3年

不自由な僕に出来ること
（発表内容の主旨）
幼い時に遭った交通事故が原因で、足が動かず体温調整ができないなどの身体障害が残り、やりたくてもできないことや生活する上で不自由なことも多い。しかし、かつて出会った同じ障害を持った男性が明るく元気に生活し、仕事に誇りを持っていたことを思い出した。自分もその人のように輝いて生きたい、夢や希望に向かって進んで行きたい。

2 広島県代表

藤井　志穂
広島市立国泰寺中学校　2年

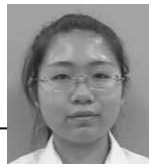
語る思いと聞く思い
（発表内容の主旨）
ジュニアライターとして原爆被爆者の体験を聞き、記事や感想を書く活動をするうち、取材をすることは被爆者を苦しめることになるのではないかと考え、活動について悩んでいた。しかしそれは「聞く側」の思いであって、苦しんでも話すという「語る側」の思いを知り、真正面から受け止めて全力で伝えることを決意した。

5 宮城県代表

斎藤　理彩
丸森町立丸森中学校　3年

豊かな言葉とは
（発表内容の主旨）
アメリカでのホームステイをきっかけに、日本では当たり前の「ただいま」や「いただきます」などの挨拶の言葉が英語にはないことを知った。同時に、日本語の表現の豊かさに気付き、自分がもったいない日本語の使い方をしていたかが分かった。日本語の使い方を見直し、豊かな日本語を未来に残していくのは、私たちなのである。

6 秋田県代表



佐々木　杏子
能代市立二ツ井中学校　3年

夢に向かって
（発表内容の主旨）
宇宙飛行士の野口聡一さんと交信するイベントをきっかけに、宇宙について関心をもった。野口さんが大切にしている言葉「Don't Worry. Be happy.」を支えに、「科学の進歩に役立つ人間になる」という夢に向かって努力し続けたい。

9 埼玉県代表

鳥居　希咲
三郷市立早稲田中学校　3年

「不可能」なんてない
（発表内容の主旨）
小さいころからパティシエールになるのが夢だったが、糖尿病のために、その夢を諦めなければならないと思った。しかし、入院先の病院で出会った一人の少女の言葉が再び私の夢への道を拓いてくれた。夢の実現は難しいが、夢を叶えるために全力で頑張っていきたい。

10 大阪府代表

伊勢川　翠
堺市立登美丘中学校　3年

素晴らしい奇跡の集合体
（発表内容の主旨）
いつも「後でする」「明日する」といって、すぐに行動しないことが多かったが、卵巣摘出という手術をきっかけに、「今この瞬間を一生懸命に生きよう」と思うようになった。病気をきっかけに、生きる希望を与えるような仕事に就きたい、医者になりたいという大きな夢をもつことができた。

祝 全国大会出場！

中部・近畿ブロックを通過し、三重県代表として発表した紀北町立紀北中学校3年小谷原ひな子さんは、奨励賞を受賞されました。

主催／国立青少年教育振興機構
協力／都道府県、公益社団法人日本PTA全国協議会、青少年育成都道府県民会議、全日本中学校長会、日本私立中学高等学校連合会
後援／内閣府、文部科学省、東京都教育委員会、NHK、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本新聞協会、社会福祉法人全国社会福祉協議会

審査委員会

○審査委員長　松本 零士　（公財）日本宇宙少年団 理事長

○審査委員
- 飯尾 まい　第32回少年の主張全国大会 国立青少年教育振興機構理事長賞
- 石田　徹　内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付 参事官（青少年企画担当）
- 石鍋　浩　全日本中学校長会 生徒指導部長
- 泉　潤一　文部科学省生涯学習政策局 青少年教育課長
- 内海 房子　国立女性教育会館 理事長
- 加藤 寿一　（公社）日本PTA全国協議会 副会長
- 鈴木 憲夫　報知新聞社執行役員 編集局長
- 西川 龍一　日本放送協会 解説委員
- 松川 憲行　国立青少年教育振興機構 理事
- 宮崎　緑　千葉商科大学 国際教養学部 教授・学部長

（五十音順　敬称省略）

---

3 沖縄県代表

河野　水穂
八重瀬町立東風平中学校　3年

乗り越えたからこそ見えたもの
（発表内容の主旨）
中学進学後、ある事をきっかけに「いじめ」のターゲットにされ、集団無視やラインでの悪い噂の流布に発展。不登校で部屋にこもり「死にたい」と思う日々。心が崩壊寸前だったが、母の愛情で自分を取り戻し、保健室登校と転校でいじめを乗り越えた。今後、私は、スクールカウンセラーになり傷ついた人の支えになりたい。

4 福岡県代表

馬場﨑　文音
飯塚市立飯塚第一中学校　3年

人は愛の中で生きている
（発表内容の主旨）
幼い頃母親を亡くし、父と二人となり、幼稚園から小学校六年生までの九年間、幼稚園の園長と主任の二人の先生に自分の娘のように育てられた。その生活の中で一番嫌な事は、先生たちから「文音のお母さんは私たち」と言われることだった。中学生になって、先生たちが「お母さんは自分たち」と言うのは、自分を守り、育て、慈しむことの証だったと気付いた。あなたを支える人達の言葉をしっかりと受け止めて欲しい。その言葉には、あなたに対する愛が溢れているはずだ。

7 群馬県代表

蓼沼　花音
明照学園樹徳中学校　3年

１０万分の１．５の奇跡
（発表内容の主旨）
十万人のうちの一人に選ばれた。しかし選ばれたのはⅠ型糖尿病という病気だった。一日八回の注射や差別・偏見が不安だった。そんな時、特別支援学校の生徒の輝く笑顔や車いすの祖父のおかげで、見方を変えようと思った。見方を変えると、病気になったおかげで出来ることに気付くことができた。病気を受け入れ共に生きていきたい。

8 東京都代表

張　哲語
板橋区立中台中学校　3年

中国と日本の狭間にて
（発表内容の主旨）
中国から日本に来て七年が経った。日本人は中国人に一つのイメージを持っているように思う。領土問題などで「中国が嫌い」と聞くと、嫌な思いもしてきた。お互いを認め合い、中国に住んでいる日本人や日本に住んでいる中国人がより暮らしやすい世界になってほしい。私は、「先進国のオリンピック」をアピールするのではなく「誰もが世界一幸せに暮らせる国づくり」を目指したい。

11 三重県代表

小谷原　ひな子
紀北町立紀北中学校　3年

「おかえり」
（発表内容の主旨）
小学生の頃、病気になった母親は、入院を断り、自分達の子どもの側にいることを選び、毎日「おかえり」と言ってくれた。病気が悪化し、入院していた母が家に帰ると聞き、今度は自分が「おかえり」を言う番だと待っていたが、帰ってきたのは亡くなった母だった。母親は、誰にとっても大切でかけがえのない存在であることに、もう一度気付いて欲しい。ひとつだけ願いが叶うなら、自分は母親の「おかえり」がもう一度聞きたい。

12 愛知県代表

林　沙樹
豊橋市立南稜中学校　3年

「あなたの笑顔を見るために」
（発表内容の主旨）
デイサービスセンターでの職場体験で、自分から気付き、動くことが必要だと感じた。そんな中、いつも一人で車椅子に座っている女性に何かしたいという気持ちになり、自分にできることは何かと思案の結果、フルートの演奏を披露することにした。演奏後、一斉の拍手の先に、遠くに優しく微笑む女性の姿があった。その笑顔に感動し、いろいろな人に温かい手を差し伸べられる大人になりたいと思うようになった。

平成27年度内閣総理大臣賞の紹介〔少年の主張全国大会　～わたしの主張2015～〕

語る思いと聞く思い

広島県広島市立国泰寺中学校２年
藤　井　志　穂

「被爆者の高齢化が進む今、十代は経験を聴ける最後の世代です。私たちは記憶を次世代へ残していかなくてはなりません。」そう書きかけた原稿を私はぐしゃぐしゃにして捨てました。私はジュニアライターという、被爆体験を聞いて記事や感想を書く活動をしています。私は何度か取材をする内に、この活動が苦しくなっていきました。

特に残っていることがあります。それまで穏やかに取材を受けていたその人は、ふいに優しい表情を崩しました。長い沈黙の後、一言。「おかあさん」と呟いてから引きつったように笑いました。でも目は笑っていませんでした。それから人が変わったように喋り始めました。グロテスクな話も心痛い話も質問を入れるスキもない位に。

取材が終わって、じわじわと恐怖が湧いてきました。話し始めと沈黙の後との表情のギャップ。それは私が家族の被爆状況を聞いた時に起こった事なのです。あの人は隠したい所に私が触らないように、笑顔で牽制していたのではないか、私はそれを無視し一番深い傷に触れたのではないか。

私は被爆者への取材を避けるようになりました。もうこれ以上被爆者の方を苦しめたくない。苦しめてまで聞く事にどんな意味があるのか。活動に対する疑問で一杯でした。

ある日、取材の人数不足で呼ばれ久々に私は被爆体験を聞く事になりました。話し手をＡさんとします。Ａさんはなぜか妹さんの事だけ話しませんでした。「妹さんはどうなったんですか。」Ａさんから表情が消えました。

「妹は死にました。全身焼けて。水を、と言われたけれど垂れた皮膚が口を塞いでいて飲ませてあげられなかったんです。」

苦しげな表情に私は声をあげました。

「ごめんなさい！もう話さなくていいです。」

「謝らないで。私がなんのために話しているか分かりますか？この苦しみを残すためです。あの地獄を思い出すと吐きそうな程悲しくなります。私はあの頃、死にたかった。友達も家族もいなくなって。でもその先の人生を歩む内に、死んだ皆の幸せも叶えるために生きてい

るのだと思うようになりました。でも私の人生だけでは足りないです。そのために私ができるのは、辛い経験をもう他の人にさせない事。あなた達の未来を守りたい。どうか、忘れないで。」

圧倒されました。そして恥ずかしくなりました。「苦しんででも話す」という決意に今まで私は気付けなかったのです。語る側の熱い思いに対し、「苦しめているのでは」という聞く側の心配はなんてちっぽけだったのでしょう。

家に帰った私は、投げ捨てていた原稿を広げ書き直しました。「私達は記憶と共に、その記憶に刻み込まれた一つ一つの苦しい経験と反戦への強い思いを引き継いでいかなくてはなりません。」

私は聞きます。被爆者の全ての思いを真正面から受け止めて。そして伝えます。一つ一つの思いが読み手の心に届くように、全力で。

中学生のメッセージ2015
（第37回少年の主張三重県大会）
発表作品集

平成28年１月

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団
〒515－0054
三重県松阪市立野町1291　中部台運動公園内
ＴＥＬ　０５９８－２３－７７３５
ＦＡＸ　０５９８－２３－７７９２
E-mail　ikusei@mie-cc.or.jp

毎月第３日曜日は「家庭の日」

「おれせんで ギュ!!」
鈴鹿市立旭が丘小学校２年　万谷和美さん

平成 27 年度「家庭の日」
絵画・ポスター展
知 事 賞

「空をとぶ夢をみた」
松阪市立阿坂小学校６年　南出実咲さん

「笑顔咲く　家庭の日」
津市立橋南中学校１年　玉井佑奈さん

「家庭の日」とは

三重県青少年健全育成条例において、「健全育成に関する県の施策」として
第９条の２に「毎月第３日曜日を家庭の日とする」と定め、
平成８年 10 月１日から施行されています。
三重県では「家庭の日」事業として、明るく楽しい家庭づくりを
推進する様々な取組を行っています。

平成 27 年 12 月 20 日「家庭の日」絵画・ポスター展　表彰式（みえこどもの城）

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団（三重県立こどもの城）